

第24期 国立市社会教育委員の会（第7回定例会）会議要旨

令和3年11月16日（火）

[参加者] 砂押、石居、矢野、栗畑、中野、朝比奈、笹生、倉持、生島

[事務局] 井田、土方、長谷川

生島議長 では、時間になりましたので、第24期国立市社会教育委員の会第7回定例会を開会させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、日野委員から御欠席の連絡があったということです。副議長はまだお見えになっていませんが、特に連絡はないということです。恐らくそのうちおいでになるかと思えます。それを含めても定数に達しているということです。これから会議を始めさせていただきますと思います。

まず初めに、本日の配付資料につきまして、事務局からお願いいたします。

事務局 事務局でございます。本日もよろしくお願いいたします。

皆様の机にある資料のうち、左側の山を御覧ください。次第が一番上にありまして、その下に資料1から6まで束ねて置いてございます。漏れがないか、御確認ください。

右手のほうの山を御覧ください。一番上が、前回、第6回の議事録でございます。こちらについては、委員さんで修正などなければ、ホームページに掲載させていただきますので、よろしくお願いいたします。それ以外の資料といたしまして、公民館だより、図書室月報、図書館のいんふおめーしょん、それから今回は、財団が発行している「オアシス」という広報紙もおつけしてございます。

配付資料は以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

今回、ヒアリングをするに当たって準備をする中で、改めてホームページを見ていったところ、財団から出しているオアシスというのがあるじゃないかと。だとすれば、情報共有を、今回だけに限らず、図書館や公民館と一緒に我々も見なければいけないと思ってお願いしました。今後も継続して出してもらえるのでしょうか。

事務局 2か月に1回の隔月でお出しします。

生島議長 というふうになったようです。ありがとうございます。

本日、資料3としまして、本会への要望書が出ております。今後の会議にも関わるかと思えますけれども、先に内容の説明をお願いいたします。

事務局 事務局でございます。要望書が出ておりますので、先に御説明いたします。資料3を御覧ください。

国立市第24期社会教育委員の会に提出された要望・意見書となっております。提出日は令和3年11月3日、提出者は記載のとおりです。

タイトルでございます。「研究テーマについての要望・意見」となっております。章立てになっていきますので、章の項目だけ読ませいただきます。

1番、「なぜ「横断・連携」を研究テーマにするのか依然理解できませんし、「連携」とは何を指しているのかも分かりません」。

裏面になります。2番、「国立市の社会教育施設や財団管理の一部施設の運

営について不信感（敵意）をお持ちのように感じます。これでは公正な調査にはなりません」。

こちらの2つの章立てから成る要望・意見書となります。
説明は以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

このことにつきまして、何か御質問等はございますでしょうか。
よろしいですか。

では、お目通しいただければと思っております。

では、次第2の施設担当者へのヒアリングの項目についてに入りたいと思います。

これまで定例会では、今期の調査研究のテーマを横断・連携ということで掲げて、横断・連携とよく言われるけれども、その実態、実のところどんな形でやられているのか、またそれをやられるときのコツといいますか、秘訣というか、考え方とか、どういうところなのか、そういうようなことを確認していきながら、より豊かな生涯学習の機会を提供できるようにしていくということが、今回の調査研究のテーマに、お題という感じになって整理されてきました。そして、調査研究の対象ですけれども、国立市の生涯学習の関連施設を対象にしていこうということになってきています。

したがって、各施設において横断・連携というのがどんな形で行われているのか、生涯学習関連施設の担当者にヒアリングをしていこうと思っております。まずは指定管理、要するに委託している施設である、芸小ホールや郷土文化館、体育館のことにつきまして、実際に担当しておられる方は文化・スポーツ振興財団の方ですけれども、その方たちを施設ごとにヒアリングを行っていこうということまで、前回確認されました。

現段階で事務局のほうで日程調整をしていただいております。恐らく後ほど、日程の御紹介があると思いますが、12月以降の定例会で早速、1館ずつ来ていただけるように、日程調整が図られてきているということです。あとは、具体的にヒアリングの調査項目をどうしていくかということですか、実際に調査を進めていく上で確認しておかなきゃいけないことを、ここで最終調整していきたいと思っております。

前回、最後のところで、事務局と議長でヒアリング項目をもんで、こちらから提案するというお話をお話しておりましたので、事務局とも相談しながら、ヒアリング項目を整えてきております。今日はまずここから、皆さんにたたき台を出してありますので、御議論いただいて、整理をしていきたいと思っております。早速次回からヒアリングになりますので、そうした準備を進めていきたいと思っております。

まず、資料1につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

事務局 事務局でございます。資料1を御覧ください。

タイトルが「施設担当者へのヒアリング項目について（案）」となっております。こちら、両面になっておりますが、表の1番と2番が事務局、議長案となっております。裏面は、前回の定例会で、各委員さんで聞きたいことがあれば事務局までというふうに投げかけて、お返事いただいたものが、3番のヒアリング項目となっております。

事前に配付した資料ですと、一番下の矢野委員が入っていなかったんですが、提出がございましたので、今回の資料に追加してございます。

表の面にお戻りください。多少重複する部分もございますけれども、1番から順番に、簡単に御説明いたします。

1番、調査研究（ヒアリング）対象施設でございます。先ほど議長からもお話がありましたとおり、対象としては国立市の生涯学習関連施設とさせていただいております。

ポツを2つ並べております。1つ目が確定している施設となっておりまして、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団が指定管理を行っている3施設、厳密には4施設となりますが、くにたち市民芸術小ホール、くにたち郷土文化館、こちらは国立市古民家を含みます、くにたち市民総合体育館、こちらの施設でございます。

前回定例会の議論の中でも、この財団の施設に併せて、図書館ですとか公民館もやっていきたいと思いますというような、確定ではない形で審議されていたので、こちらについては現段階では協議中という形にさせていただいております。こちらもしアヒアリングしていきましようということになりましたら、調整させていただきます。

続きまして、2番を御覧ください。こちらが実際にヒアリングする際の質問項目案となっております。

大きく3つに分けて、(1)は、まず連携しているかという質問です。その中で①と②に分けさせていただき、連携している事業がありましたら、その事業について具体的な内容を聞くという仕立てとなっております。②は連携していない事業というのもお聞きするようにしております。そういった事業については、連携を行わない理由ですとか、今後連携をしていくかといった内容の質問をしていく形となっております。

(2)としまして、コロナ禍の話もせつくなのでヒアリング項目に入れましようということで、コロナ禍における対応について質問項目とさせていただきました。

(3)その他ですけれども、それ以外に、社会教育委員の会に対して担当者として伝えたいメッセージといったものを、ここで受けるという仕立てとなっております。

こちらの3項目が、全施設に共通して聞く項目になろうかと考えております。

裏面は、先ほど申しましたとおり各委員から提出いただいた質問内容を、委員名、施設、質問内容という形でまとめたものになってございます。

資料1の内容については以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

事前の事務局との打合せの中では、事務局のほうから提案をしていただき、私も提案をする形で突き合わせたところ、ほぼ内容が一緒だったんですけれども。

表の面でお示ししたのは、どの館にもまずこの辺りのことを聞いてみよう、そうすることによってそれぞれの館、事業の特性もあると思いますので、連携しているものにつきまして、実態をお聞きしてみたらいいのではないかということなんです。

もう一つポイントは、施設の貸し館とか、会場を使ってもらっているとか、そういう業務はいろいろあると思いますが、ここで連携をすると言ったときには、具体的にいうと主催事業をするようなときに、どこか別のところと手をつないで行うことによって相乗効果をつくらうとするというようなことになるとか、貴館で主催・共催している事業について、ほかの館であるとか施設、団体と連携しているようなことを捉えていくといいんじゃないかというふうにして組立てをしてあります。(1)で、実際にやっているかどうかということと、やっているならその内実ですね。

(2)はコロナ禍のことで、他施設とかいろいろ外部の人が来るといったと

き、今回、コロナで来にくくなったりしているところもあると思いますので、その辺りがどうだったか。場合によってはオンラインをつないだとか、そういうこともあり得るかと思いますが、その辺りもお聞きできればということでした。

あと(3)、今後展開していく上での課題ということで、この辺りの3項目を聞いていくと、かなりボリュームは出てくるじゃないかなという感じで、事務局と話をしながら提案をつくってきたということです。

これについて、御意見等いただいきたいと思いますが、最初に裏面のほう、それぞれ委員の方からもヒアリング項目を出していただいています。こういうことを入れたほうがいいのではないかとということがあるかと思いますが、今御提示した全体に関する項目の中に、これがまず入り込むのかどうかということも、ちょっと勘案していただければ。そうでない、もっと全体のところでこういう質問が必要ではないかということであれば、その御意見も関連していただければと思ったところです。

また、個別にこの施設についてぜひこういうことを聞きたいということもあるかと思いますが、それはそれで各施設の特性もありますから、お聞きできるように含んでおけばいいかなと思っておりました。

その辺、既に御意見をいただいている方々に、先に確認させていただければと思ったんですけれども。まず、笹生委員、いかがでしょうか。

笹生委員 笹生です。今日配付されている事業報告書など結構しっかり読みながら、考えたことを書かせていただきました。ということで、私自身がスポーツ社会学の研究者だということもあるので、体育館について詳しく聞きたいこともあるんですけど、当然これは全施設に敷衍できる話ではないので、上の2枠は基本的に無視していただいてもよろしいかなと思います。

一方で、3つ目の枠で私が思ったのは、指定管理者に委託するということは、やっぱり人材を委託するということなので、そこで働く方の顔が知りたいなどというのは、結構強く思いました。特に、かなり研修をしっかりとやっていますと書いてありますので、その辺りがまさに前期の社会教育委員の会でも、職員の専門性を高める研修という話をしたので、そこへの参考意見にもつながり得るかなと思います。職員さんの研修がどういう形でなされているのかということ、表面のほうにもしかしたら入ってもいいのかなと、今日の話聞いて思いました。一番下のポツは、表面の(3)を言い換えたただけなので、無視していただいてもいいと思いますけれど。

ということで、施設で働く職員さんの専門性については、少し全体としてあってもいいかもというふうに、今日この表の面を見ながら思いました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。財団として、職員さんにどんな形で携わってもらっているかということで、特に職員さんたちの力量形成の部分ですね、専門性だったり、そういうところを聞いてもいいんじゃないか。もしかすると、そういった専門性のところに連携をつくっていく力というのに関わってくるのかもしれないですけども。その辺りは共通して聞いてもいいのではないかとということをお話しいただきました。ありがとうございます。

個別のことに關しては、時間があったら聞いていただいてもいいのかなと思いました。

次に中野委員、いかがでしょうか。

中野委員 中野です。私、出したんですけど、特にこれというのはなくて、前回の

お話の中で、議長、事務局でまとめていただけるということだったので、聞くとすれば一般的なこういう内容でいいんじゃないかと思ったのを、書きつづただけですので。表面に載っていることで十分じゃないかなと思っています。

生島議長 ありがとうございます。大丈夫ですかね。網羅されているというか、重なっていただければいいなと思っておりました。

あと矢野委員、御意見をいただいてありがとうございます。どうでしょうか。

矢野委員 この件に関しては郷土文化館と生涯学習課の関係なので、普遍化することはできるかもしれないですけども、全体というより個別のこととして、書きました。

生島議長 はい、分かりました。そうしましたら、郷土文化館の方がいらしたときに、個別に聞いていただいてもいいのかなと思っていますということですよ。

今、皆さん方にも全体を見ていただきましたけれども、ほかの方、またはコメントを出したけれども、そのこととは違って、もっとこういうのもあっていいんじゃないかというようなことがありましたら、御意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

笹生委員、お願いします。

笹生委員 笹生です。すみません。石居委員に急に無理な振り方をちょっとしてしまうと、先に予告してしまうんですけど。今回、各施設の方を呼んでヒアリングをしましょうという形式は、図書館協議会がやられていることを下敷きにしているイメージだと、私は感じています。当然、質問項目も違いますので、全然流用できるとは思わないんですけど。図書館協議会では、大体どういう形でヒアリングのときに話を進めていくのかなというイメージをもし教えていただけたら、皆さんにもイメージが伝わりやすいんじゃないかなと。

生島議長 では、石居委員、お願いします。

石居委員 ありがとうございます。

図書館協議会では、質問を用意して聞くというよりは、基本的に各事業ごとに担当の職員の方が、まずは御自身が担当している事業の説明をするという形で、事業説明のための資料を用意して配っていただいて、お話をしていただく、そこから出発して、その話を受けて、逆に説明の内容についてが1つ、その説明になかったことで事業に関わって聞いてみたいことを伺うというような感じなので、事前に質問項目を出すとか、問いかけから始まるという形とはちょっと違うというのが、強いて言えば今回と違うところかなと思います。

ただ、前に質問が入るというだけで、その回答が来たところから先の議論の進め方というのは、多分あまり変わらないのかなとは思っております。

というようなことで、いかがでしょうか。

笹生委員 ありがとうございます。

生島議長 笹生委員、それを受けて、何か御意見等ありますでしょうか。

笹生委員 いや。イメージどおりの回答といいますか、これで少し皆さんも、一つ前提が共有でき得るなと思いましたので。

やはり今回、3項目ですか、ありますけれど、ここから広げていくことが必

要であるということは、改めてよく理解できました。適切な回答、ありがとうございます。

生島議長 図書館協議会の場合は、図書館の中の事業について聞くということですので、ある程度実態を教えるということだとは思いますが、今回は我々、いわゆる外部といいますか、どういうテーマで教えるということを先に提示しないと、分かりにくいかなとも思いますので、その辺の違いが出てくるかとも思います。ただ、今お話があったとおり、聞いていながら深めていくというやり方については共有できるかなと思いました。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。また、笹生委員から研修のことについて付け加えたらどうかという御提案もありましたけれども、そのことについても、ぜひ皆さんからも御意見いただければと思います。

砂押委員 表面に追加していいのではないかなと思います。やっぱり人材育成というか、どういうふうに生涯学習振興のために人材育成に取り組んでいるか、ほかと連携をしながら生涯学習を促進していくという意味でも、どのようなことをやられているかというのは、聞いてみたいなという気はいたしました。

生島議長 ありがとうございます。ぜひ加えたらいいんじゃないかという御意見でした。

またその前提のことも含め、何かありますでしょうか。

よろしいですか。

これ全部聞いていくと、結構お話が、時間も過ぎるんじゃないかというふうには。

倉持副議長 ちょっと確認したいんですけど、よろしいですか。倉持です。

この御提案だと、連携している事業全て、あるいは連携していない事業全て、つまり①、②で全ての事業について聞くというふうに読み取れるんですけど、全てについて聞きますか。聞く必要ありますか。事業数って、すごく多いですよ。端から全部、連携していますか、しているんだったらこの内容を下さい、していないんだったらその理由を下さいって、全部総当たりでやりますか。やる設計で、この提案をされているんですよ、今日って。

生島議長 そこまでは言っていないですよ。主要なというか、分かりやすいものというような感じで私はイメージしていたんですけども。どうですか。

事務局 そうですね。全てはなかなか、時間も限られていますので難しいと感じておりますので、代表的なものとか、例えば数とかで示すとかという形にはなるかと考えておりました。

倉持副議長 なるほど。連携の定義というのをどういうふうに、先方に御説明しますか。例えば共催だと連携なのかと言い出したら、共催事業だけでもたくさんあると思うんですけど。そうとも限らないんじゃないかと思うんですよ。連携ということの意味って。

連携が、協力程度の連携から協働程度の高さのものまで含むものとして、今、考えようとしている、あるいはそういうものとして実態を捉えようとしているのであれば、そこそ私たちはどういう形で、どういう内容、方法で連携しているかということ聞き取らなければいけないと思うんですけど。しかし、そうはいつでも、片っ端から聞くことにあまり意味はないかなと、ちょっと思

っていて。

私、(1)の②の意図がちょっと、あんまりよく分からないんですけど、連携していない事業というのは、どういうことを指すのかというか。だから、これを見て全部聞くのかなと思ったんですけど。つまりこれは、連携したいと思っているけどできない事業ということですかね。この②が設定されている意図を知りたいなと思ったんですけど。

生島議長 これ、実は私のほうで出して、事務局のほうでも出して、これは事務局の文案が残っているんじゃないかと思うんですけども。私の出した意図は、連携しようと思っているけれどもできていない事業、全てしなきゃいけないものではないと思うんですね。だから、しようと思っているけれどもできていない事業という意味で、なぜ連携を行わないのかと、ここの文ではありますけれども、行いたいんだけど、何かできない理由があるのかとか、むしろこうだったらいんだけどみたいなものがあれば、課題というところにつながってくるかなと思ったので、そこら辺が聞ければいいのかなと思ったところですが。事務局のほうで、何かありますか。

事務局 事務局です。こちら、議長と若干意見がずれていたところを、事務局寄りに寄せていただいたという経過はございます。

もともと、連携している事業があれば、あるほうに答えてください、なければいかに答えてくださいという設問だったんですけども、何かしら連携はしているだろうということで、それであれば、まだ手がついていないところにも質問を投げかけることで、今、議長がおっしゃったような、連携したいんだけどできてないんだよという、担当者としての、そうした話を聞き取ることができればというふうに考えておりました。全く連携していない事業というのものもあるのかもしれないですけども、どちらかという、つながりたいけどという、もどかしいところを聞き取りたいなという意図はございました。

倉持副議長 なるほど。ということは、前提として主催、共催事業というのは何らか連携して行うべきだけれどもという前提があるんですかね。できているものと、できてないものがあるから。

生島議長 多分そこら辺が、私はマイナスにちょっと考え過ぎたのかもしれないですけど。ここにある理由は、連携している事業を教えてくださいといったとき、うちには連携している事業が全くないよと言われたときに、何かできない理由はありますかということになったんですよね。だけど、どこか、何らか連携しますよということであれば、連携をどういうふうに行っているかというか、そちらをむしろ積極的に聞き出していきながら、そのやり方というのを、エッセンスをもらうというようなイメージだと思いますので、②のところは多分、それほど積極的に聞いていくことではないかなと思っているところです。

倉持副議長 ありがとうございます。

もし②を聞くんだとしたら、今の議長がおっしゃったような意図であれば(1)の中に入れないで、(1)としては既に連携している事業について、その事業の目的なり、きっかけなりということと、どこで連携しているかとか、内容とか実態ですよね。で、その効果や課題ということをしつかり聞き取ったほうが、今回、連携の実態を探り、成果を語り、課題を知ろうという目的の意図には、まず合ってるかなと思うのと。ただ、職員さんたちの問題意識として、連携、協働したいけど、なかなか実現していない事業があるんだとしたら、そ

れを聞き取ることで、何が壁になっているのかなということを知ることができると思うんですけど。多分、その2つの質問は別のことのような気がするので、つまり(1)は実態を基に聞くわけだし、(2)のほうは問題意識を聞くわけなので、分けたほうがいいんじゃないかなと思ったというのが1つです。

それから、さっき言ったようにヒアリングでどれぐらい聞くかということになると、量と質の問題なんですけど、事業ごとにとというのは、①にしる、②にしる、さっき言ったように気になって。とにかく連携しているものをたくさん聞いて、たくさん量を聞いて、その傾向を知ろうとするんだったら、たくさん事業ごとにそれぞれどういうふうに行っているか、ある程度の量を聞く必要があると思うんですけど。アンケートじゃなくて直接対話で伺うということであれば、事業数を少し絞って特徴的なものを、きっかけとか経緯と実態、成果と課題というのを、やや丁寧に幾つか語っていただくというほうが、質的なことが聞けるかなと思ったので。この辺りも皆さんと、いろいろ聞いたほうがいいのか、少し絞って聞いたほうがいいのかという意見交換ができればいいんじゃないかなと思います。

このア、イ、ウのところに、中野委員から挙がっているWhoに当たる連携先とか、Whenに当たる期間ですね。いつからやっていたらいいか。Whyに当たるのはアのきっかけじゃなくて、イの工夫のほうかな。ウかな。ちょっと分からないですが、目的みたいなこととか、あと、課題もここで一緒に聞いたほうがいいのかと思うので、連携しているけれどももやっている中で見えてきた課題があるのかみたいな、項目を少し整理したらいいのかなと思いました。

生島議長 ありがとうございます。

後のほうの御意見でいいますと、中野委員からあったものを、もう少し細かく入れていったらいいのではないかとということでしたけれども、その前の、全部の事業を聞くのは大変なので、どんな事業の抽出の仕方といいますか、聞き方というか、をするかということについて、質なのか、量なのかということ、皆さん方からも御意見いただければいいなと思っております。いかがでしょうか。

笹生委員、お願いいたします。

笹生委員 量的な話ではやはり、今日配っていただいた事業報告書にかなり細かく書かれているので、こちらを先に我々のほうでしっかり目を通した上で臨むべきかなと。ここに簡単な説明が書かれていますけど、例えば8ページとか見ると、すごいいろいろなところと連携して、芸術の振興事業のようなことをやられています。なので、こういう中で、ユニークなものとかもたくさんありますので、そういった経緯とかを聞いていくのがよろしいんじゃないかなと思います。

生島議長 ありがとうございます。量はある程度ここで分かるんじゃないかと。なので、質的なものというのがいいんじゃないかということでした。

ほかには、御意見いかがでしょうか。中野委員、お願いします。

中野委員 私は量より質のほうの方が大事かなと思います。というのは、連携によって得られた効果というものをきちんと聞くことが大事かなと。そうすると、連携するとこういう効果がある、人材にしる、質にしる、そういうのが確認できれば、連携として生きてるんじゃないかなと思いました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。笹生委員と同様の御意見と承れるかなと思ってお

ります。

大体そのような感じで、どうでしょうか。いいのかなと私も思うんですが、違う意見、ありますでしょうか。

石居委員、お願いいたします。

石居委員 特に方向性は変わらないんですが、少し付け加えるという意味でいうと、先ほど事務局の御説明にもあったように、聞き方としては既に連携している主な事業とか、主要な事業という形で、質的に絞り込むということだと思います。ただそのときに、主要なという、恐らく主催、共催という形で、かなり事業規模として大きかったり、いわゆるその施設を象徴するようなものに事例が集中するかなという懸念があって。

先ほどの連携をどのレベルで考えるかという話ともつながるんですが、もう少しここで知れるといいなと私自身が思っているのは、いわゆる主催、共催と名前が出る形で連携しただけではなくて、具体的に名前は出ていないんだけど、協力を得たとか、情報提供や情報共有、情報交換をしているとか、ちょっと水面下のレベルでの連携みたいなものがどれぐらいなされていたり、あるいは課題という意味でいえば、それをもっとやりたいと思っているのか、それはあまり意味のないことだと感じているのか。そういう意味では、主要といったときにもすれば消えてしまうようなことを、少し意識化して御説明いただけるような持っていき方ができるといいのかなと思っているんですね。

なので、そういう意味ではここで言う連携というのが、主催、共催と名前が出る、あるいは後援や協賛とかというレベルだけではなくて、もうちょっと下のレベルも考えているんだということ、少し補足しながら、(1)の質問に入っていけるといいのかなというふうに思います。

生島議長 ありがとうございます。

共催とかだと名前貸しだけということもあり得てしまうかなと思うんですけども、主催までそうだとすると、事業以外のことも含めてということでしょうか。

石居委員 そうですね。なかなか難しいんですが、例えば何かしら講座や講演会をやるときに、名前としてはある施設が主催でそれを実施しているんだけど、その人を探すと、声をかけるとか、そういう過程において、もっとより専門的な知識を持ったどこかに協力を依頼しているとか、そういうようなことだと、事業であっても名前は出てこない、でも協力はしている、そういうことがあり得るかなと思っています。

生島議長 分かりました。となると、事業は事業で、主催事業ではあるんだけど、実際に、主要なというところではないかもしれないけれども、いろいろなところとつながりながらつくられているのは、実はこれですよというようなものが見つかってくるといいというような意味ですか。

石居委員 そうですね。もう一つだけ具体例を言ってしまうと、想定しているのは図書館で考えているんですけど、図書館で郷土資料コーナーというのがあって、その郷土資料を担当する職員の方がいらっしゃるんですね。でも、そこは、スペース的にも非常に限られるし、図書館の予算的にも収書能力にかなり限界がある。で、実は郷土資料に関わるものというのは郷土文化館にも図書室があって、そこでも持っていたりするんですね。その間で、例えば情報交換をして、蔵書をすみ分けるのか、やっぱりこれは必要だからそれぞれで持つのか、

そういう連携をすると、もう少し限られた予算を使いながら、市の郷土資料の情報蓄積というのをうまくできるのかなと思ったりして。郷土資料担当の方に聞くと、その辺、時々情報交換しているんだけど、なかなか日常的には難しいところがあるというような話も伺ったりしているんですね。

そういうことは、いわゆる共催だ何だって名前が出るものではないので、日常的な業務の一つの中で、どういうふうに連携関係をつくって行って、社会教育環境を充実させるかという話につながるんじゃないかと思うので、そういうものをうまく、この回答の中にすくい上げられるようにできるといいかなと思います。

生島議長 分かりました。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 言葉の問題かもしれませんが、「貴施設で主催・共催している事業」というのは、主催か、共催かどちらかですので、普通に「実施している事業」でいいのかなと。要するに名前貸しだけしている事業は除くでいいので。

栗畑委員 よろしいですか。ざっと見た限りで、恐らく名前貸ししてないように思えるんです。共催は間違いなく、ほかの団体等と一緒にあって、逆に言えば、その団体を当てにしないと、成果が得られないというか、目的を達成できないというような感じがします。

ですから、主催事業については、先ほど皆さんがおっしゃったように、誰に聞いているのとか、内容は書いていますけど、毎回同じところを頼っているんじゃないのとかいうことは分かるかもしれませんよね。

生島議長 今、お三方いろいろ御意見いただいて、共催って名前貸しみたいなのは、とにかくここでは対象にならないということは共通しているかと思うんですが、あとは、こういうのを聞きたいのでお願いしますという際に、どういうふうに言ったら伝わりやすいか、私たちが聞きたいことをお答えいただけるかということなのかなと思って、その辺りを少し、聞かれる側の立場になったとき、こう聞かれたら言えるかもみたいなことで御意見をいただければいいかなと思っていたんですけども。

今の御意見ですと、連携しているもので共催といった場合には、名前貸しぐらいのものでは言われてないんじゃないかということで承っていいんですかね。いかがでしょうか。

倉持委員、お願いいたします。

倉持副議長 それも含めて、実態として話していただくわけだから、それこそ講師派遣を連携として捉えてお話しされるのか、企画、準備、運営から共同してやるようなことを連携として御紹介いただくのか、その辺も実態として伺えばいいのかなと思うんですけど。

でも、先ほど石居委員の御意見で、「主な」と言っちゃうと落ちちゃうところがあるんじゃないかと言われて、確かにと思いつつも、でも「全て」はちょっと聞けないから、「複数挙げてください」とか言うかなとか。異なる連携主体、連携方法のものを幾つか取り上げて伺いますみたいな感じで言うのかな。「貴施設で、他の施設、機関、団体と連携して実施している事業について、幾つか、以下の点を御紹介ください」とか「伺います」とか、そんな感じで質問するのがいいのかな。幾つかが幾つを指すのかというのはちょっと、そこまで議論したほうがいいのかどうかというのはあるんですけど。

そのときに、例えばみたいな感じで、石居委員がおっしゃったみたいな、何と言って説明すればいいか分からないけど、共催と名は打ってないが。

生島議長 日常業務の中でということも……。

倉持副議長 関わっている事業とか。私なんか、例えばここで言う実行委員会形式でやっているような、複数の団体と一緒にやっているようなものとか。逆に、長い歴史があるんじゃないなくて、ここ数年で始めたものとか、幾つか連携パターンをこちらから例示というか、そういうのがあれば教えてくださいみたいな形で、幾つか紹介してもらおうというのもありかなと、今のお話伺っていて思いました。あと、学校と連携しているものとか、ちょっと観点を出すのもありかなと思ったんですけど。

生島議長 ありがとうございます。

砂押委員 砂押です。そういう聞き方をしたほうがいいかなと思ったのは、例えば事業報告書の8ページから、芸小ホールのいろいろなイベントなり、事業なりが載っているんですけど、これ全部を分かって、どことどうやって連携したかとか、いろいろたくさんある事業を、全部ひとりでしっかり答えられる人はいないのではないのでしょうか。多分それぞれの担当が、蛇の道は蛇じゃないけれど、独自のルートを持っていたりするのではないのでしょうか。例えば偉い人が出てきて、現場担当者のそういうルートまで知っているかということ、答えられない可能性もあるかなという気がちょっとしてきました。事前にそういう分類をするような形で、誰かが取材して答えられる形に持っていったほうが、答えやすいかもしれません。まあ、全部答えられる人がいるのかもしれないけど、今のお話を聞いて、我々の思っていることをもう少し、向こうも答えやすいようにこちらからちょっと提示したほうがいいのかないかなという気がいたしました。

それともう1点、さっきの倉持先生の話で、(1)の②で、まだ連携していない事業について、という項目があって、その事業を教えてください、なぜ連携を行わないのか、と聞かれると、いや、それは別に連携しなくても単独でちゃんとできる事業なんです、みたいなものも、中にはあるのかなと思います。やっぱりここは、担当者の方がこういうことをやりたいんだけど、何か障害になっているとか、人材育成の問題もあってなかなか人脈が広がらないとか、生涯学習事業を活性化するためにいろいろと考えている中で、特に外部との連携という点で困っていることとか、そういうことを聞くのかなという気がいたしました。

生島議長 ありがとうございます。

聞き方といいますか、どういう手順で、依頼をする段階とか、当日においていただいた時にこちらから投げかけるかとか、そういういろいろな段階でも異なってくるのかなと思うんですけども。恐らく手順としては、あらかじめ来ていただく際に、こういうことでお聞きしたいのという感じで、今のような質問項目を提示しておいたほうがいいのかないかなとは思っています。そのときにあらかじめ、ある程度の答えを出しておいてもらって、それをこちらに来て説明してもらおう形にするのか、むしろその答えを持ってきてもらうという形で、ヒアリングの場を過ごすか。これはまた考える必要があると思いますけれども。

来ていただいた段階で、その館の実情とか業務に併せながら、こういうことを聞きたいんですというのは、やっぱりその場で最初に御説明しないといけないと思いますので、その段階で少しかみ砕いて質問するというところで、今のお

話が生きてくるんじゃないかなとイメージしていたんですけれども。

図書館とかであれば、日常業務の中に蔵書構築ですとか、整理というところで様々な団体と連携というのがあるかと思うけれども、例えば芸小ホールだと、それが個別の事業になるかもしれないし、または複数の事業の中で、講師やカウンターパートになる人、いない？ という相談相手がいたりとかもするかもしれない。その施設の実情によって聞き方も異なるのかなと思いました。

共通質問では、ここも主催、共催している事業というよりは、むしろ「実施している事業はありますか」というぐらいにしておいて、当日来ていただいたところで少しかみ砕いた投げかけをすれば、今の議論というのが生きてくるかなと思いましたが、いかがでしょうか。そんな提案もさせていただければと思ったんですけれど。

倉持副議長 つまり、質問項目はこのままということですか。

生島議長 質問項目は、ここで言う「貴施設で主催・共催している事業」は言い換えたほうが良いと思うんですけれども、「連携している事業が幾つかありますか」とか、ぜひここで紹介したいものとか、複数の形態のものを幾つか御紹介くださいというふうな文脈にしておいた上で、事前に掲出して、そして当日、それを少しかみ砕きながら投げかけて、答えていただくというふうにしたらどうかなど。

倉持副議長 ということは、さっき言った、連携の、例えばこういうのを紹介してくださいというのは事前にパスせずに、その場で伺う。

つまり、いらっしゃる方はある程度この事業を説明しようかなというふうに準備していらっしゃるんじゃないかと思うんですけど、そうだとすると、例えば複数団体と連携しているものとか、小学校と連携している、学校と連携しているものとかというふうに、観点をあらかじめお伝えしておいたほうが、ピックアップしていただきやすいかなと。で、その中身をさらに、細かいこととか突っ込んだ話みたいなことはその場で、先方の担当は何人来ているのかとか、事前の打合せは何回ぐらいやってるのかとか、そういう話はその場で伺えばいいんじゃないかと思うんですけど。

生島議長 では、ここに少し連携の具体例として。

倉持副議長 入れたほうがいいのかどうかというのを、ちょっとここで議論したほうが良いかなと。ピックアップは先方にお任せとするのか、こちらである程度、例えばこういうのを出してくださいますようお願いするほうがいいのかということですかね。

生島議長 どうでしょう。あとは具体的に出すとすれば、どんな項目にしたらいいかということも含めてかなと思いますけれども。

確かに、ここに書かないで後出しするよりは、少し例示をしておいたほうが、幾つかありますかといったとき、例えば学校との連携とか、講師の紹介とか。

倉持副議長 長年やっているものとか、最近始めたものとか。何か幾つかそういう観点を示す。

生島議長 (1)のところに付け加える形で。

倉持副議長 そうですね。例みたいな感じで。

生島議長 どうでしょう。そんなほうが、こちらの意図に即してお答えいただけるかなという。矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 あとは、施設ごとに違うので、今のお話プラス特徴的な。それがどう特徴的かというのは、施設で判断していただいて。

倉持副議長 いいですね。特徴的になって、いいですね。

生島議長 はい。

ほかにはいかがでしょうか。今みたいな、こういうのを入れといたら、より分かりやすいんじゃないかとか、答えやすいんじゃないかというような。講師を長期やっているものとか、こんな団体とつながっているとか。つなぎ方というのは何かありますか。

砂押委員 きっかけという書き方がしてあるので、これがちょっと、きっかけという言葉でいいのかどうか。どういうふうにして連携先を見つけたんですか、とかどういう聞き方がいいのかなと、今少し悩んでたんですが。

倉持副議長 でも、さっき矢野委員がおっしゃった、特徴的なというのは結構いろいろ含んで、いいですね。その施設の特徴をつかんだというふうにも聞こえるし、特に成果を感じているという意味とか、特に課題を感じているというのも、そこにいろいろ入れ込めそうだから、特徴的なというのは。

生島議長 「連携をしている特徴的な事業がありますか」というふうに問いちゃう。

倉持副議長 連携先で例示しちゃうと、結構またたくさん、小学校、学校とか、企業とか、市民団体とかやり出すと、また例示が多過ぎちゃうような気もして。特に聞きたいのがあれば、そこを目指していけばいいと思うんですけど。切りがなくなっちゃうかなって気もするんですよ。

生島議長 特徴的な、相手を聞くんですか。それとも特徴的な事業を。

倉持副議長 事業じゃないでしょうか？事業の中に相手も、きっかけも、成果も、課題も含まれるという。

生島議長 では、例示のところというよりは、むしろ本文で「特徴的な事業を御紹介ください」というふうな形で聞いていくと。連携している特徴的な事業を御紹介くださいと。で、そのことについて深掘りしていくというふうな。そういう感じですね。

倉持副議長 で、できれば複数聞きたいんですよ。

生島議長 はい。

倉持副議長 たくさん聞き過ぎると大変だけど、1個じゃないほうがいいんですよ。

生島議長 はい。

倉持副議長 では、それも。「幾つか」と。

生島議長 特徴的なものを幾つか。場合によっては、1つの事業がすごく大きいということもあるかも知れないですけど。

倉持副議長 まあ、そうですね。

朝比奈委員 朝比奈ですけれど、よろしいでしょうか。今の矢野委員の発言とも関連してくるんですけれども、特徴的な事業といふとなかなか、説明するのが難しいとすれば、今、一般的に施設の場合、施設の売りは何ですかというところが、特に指定管理の場合なんかは問われてきますので、指定管理を受けようとするとき、うちの施設の売りはこういうことですよ、何年たつてさらにこういうことを充実していきますよと、そういう聞き方もあるのかなという気がするんですけど。

笹生委員 笹生です。この話の原点に戻りますと、もちろん学習者が満足したかどうかは一人一人に聞いていかなきゃいけないわけですけど、それは当たり前だけでも、やはり事業の実施者側からして、学習者の満足が高いように見受けられる点に特徴がある事業を聞くという感じでいかがですか。

というのが一つ大事だと思うんですが、一方で、先ほど郷土資料の話もありましたけれど、直接市民がする学習として満足するわけじゃないけど、必要な根幹的な事業というものもあり、それもまた特徴的というものに含まれますよね。ですので、特徴的にも広がりがあるという一方、聞く側は困るかもしれないというので、やっぱり学習者の満足度が高いと見受けられるような事業と、絶対外せない根幹的な事業あたりがあるとよろしいんじゃないかと思います。

生島議長 それは、「特徴的な」の代わりにという。

笹生委員 いや、その中にという、そういう点に特徴がある。満足度が高いという特徴、重要度が高いという特徴という意味で、提案しました。

生島議長 はい。

「特徴的な」を説明するような。だんだん文章が長くなっていくような。

ただ、特徴的なというところにはやっぱり、そういった視点というのは含まれますよね。そこを、今回投げるときに提示するかということなのかなと思っているんですが。一番はその辺を酌み取ってもらえればいなということなんですけれども。

倉持副議長 お送りするときに、「特徴的な」という意味は、施設の特性を生かしたもののや、施設の看板、売りになっているようなもの、学習者の満足度につながるようなものといったことが「特徴的な」ということですよという説明を、ちょっと添えていただくというのはどうですかね。文章にして入れてもいいんですけど、入れるとまた複雑になりますかね。入れるなら、補足というか、注というか、括弧というか、の形で入れるという。

生島議長 例えば、それこそ学習者の満足度が高いとか、売りになっているとか。という感じで加えておくと、その「特徴的な」を聞けるような感じになるかなと。幾つか例があると、複数の事業も挙がってきやすいかもしれない。

ちょっとその辺、書き方を工夫しながら、キーワードとしては「特徴的な」という感じで聞いて、連携している特徴的な事業というのを聞いてみようということかなと思います。はい、ありがとうございます。

それからもう一点、先ほど砂押委員から出ていた、まだ連携していないということよりは、むしろ連携するに当たっての課題というのを聞いていったほうがいいんじゃないか。そうしたときに、多分(3)と重なってくるのかなと思うので、ということは、あえてここで連携してない事業について聞かなくてもいいんじゃないのという御意見にもつながってくるのかなと思いますながら伺っていたんですけれども。その辺、砂押委員、何か。

砂押委員 確かにそのとおりでと思います。何が課題ですかと、聞いていくのがよいかと思います。生涯学習を推進していくために、人が見つからないとか、団体が見つからないということが課題だということが把握できますので。

だからやっぱり②は、なぜ行わないのかと言われると、ちょっと困るような気もするので、この聞き方はちょっと難しいかなと思います。(3)に入れてもいいかなという気はします。

生島議長 同様の御意見等いただければ、ぜひお願いしたいんですけれども。いかがでしょうか。

石居委員、お願いいたします。

石居委員 今伺って、それも一つの手かなと思ったので、それでも意義はないんですが。その前の段階で自分で考えていたのは、最初にこれを拝見したとき、あれと思ったのは、(3)は「事業実施に当たり課題」というと、かなり広がると思うんですね。今回のヒアリングを連携というところに絞るのであれば、その課題も連携に関わるところに限定したほうが、際限なく広がらないのかなと思っていて。

そうすると、どこに課題を聞けばいいのかというと、恐らく聞きたいのは既に連携している事業の、もちろん実績や効果の一方で、連携した中での課題はないのかという、(1)の①に関わって課題を聞きたいのが一つと。もう一つ、②のほうは、このままの文章だと、連携こそが正義で、連携しないことは何か駄目なことだと聞かれているように、どうしても聞こえるので、②をそのまま生かすのであれば、連携の必要性を感じていながらまだできていない事業についてという聞き方をすると絞れる。その上で、では、連携を行えない課題はどこにあるのかということ、具体的にその中で聞くと、連携できていることに関わる課題と、できていないことに関わる課題というのをそれぞれ聞くことになるのかなと、ちょっと思っていました。

なので、①と②を生かしつつ、その中にそれぞれ課題を入れるか、あるいは②を解体しながら(3)に入れちゃうか、どちらかかなというふうに思いました。

生島議長 はい。または(3)も少し絞ったほうがいいんじゃないかという御意見もあると。

石居委員 そうですね、はい。

生島議長 今、御意見をいただきました、書き方の問題という感じもするかなというふうにも思うんですが。いかがでしょうか。

倉持委員、お願いいたします。

倉持副議長 最初にも言ったように、私も（１）の①と②に分けないで、②だけを独立させるか、今、御意見のあったように（３）と一緒にするというのはいいと思います。

①の中でも課題をちゃんと聞く、成果と課題を聞くという中野委員がおっしゃってくださったところは重要な、今回の目的だと思うので、実際に連携している事業についての成果と課題を聞く。で、連携したいけどできない、あるいはそういう抵抗がある事業に関しての展望というか、なぜしたいかということと、その課題ということで聞くという方向で、そうすると確かに（３）はもう要らなくなっちゃうかなとか、あるいはそれを（３）にするのかなという感じになると思います。

今、石居委員がおっしゃった、今回は連携について聞くんだという確認はすごく重要だと思ったので、それに関わって、また別の項目になってしまうんですけど、（２）についても２つの文章があるんですけど、前半の文章はコロナの対応全般について聞いているように受け止められて、これを聞こうとすると、ここだけで物すごくボリュームになると思うんですけど、今回聞く趣旨がコロナ対応ではなくて、コロナ対応が連携事業に対してどのような影響があったか、どういう困難があったか、あるいはコロナによってむしろ新しい連携や、新しい形みたいなものが生まれていたら、それを聞くということなんじゃないかと思うので、コロナの状況に関わって連携事業がどんな影響があったかとか、そういうこととして組み換えた表現で聞いたほうがよろしいんじゃないかなと思います。

そうすると、先ほど笹生委員から御提案いただいた職員の話も、例えばですけど、連携事業に関わる職員の専門性ってどういうことですかとか、どういう力が求められると思いますかとか、あるいはそういう力を養う研修について、どのように取り組んでいますかとか、どのようなことが必要だと思いますかというような形で、やはり連携事業に関わる職員の専門性と研修という形で聞くと、全体的に焦点を絞って聞けるかなと思いました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。３点ですね。それぞれについて、もう少し連携と絞り込んだほうがいいたらという御意見だったと思います。非常にそのとおりじゃないかなと思っておりまして、そういうふうにしていったほうがいいのかと、本当に思うところです。

具体的に考えていくに当たって、まず１つ、連携していない、（１）の②ですよ、これをどうするかということと、そのほかの（２）（３）についても絞り込んでいく文言に変えていくという考えはどうかということでした。

１つずついきたいと思いますが、やはり課題の聞き方ですよ。それをどうしていくかということで、まずは（１）の①、既に連携していることについても、ちゃんと課題を聞かなきゃいけない。やっていっているときにある課題って何かということは、ちゃんと聞いたほうがいいのではないかというのは幾つも御意見をいただいておりますので、入れておいたほうがいいのではないかと考えています。

次、②ですけれども、まだ連携していない事業について、何でしないのというよりは、しようと思っているんだけどできない事情が何かあるとすれば、それを教えてほしいということですかとか、またするに当たって、こういうのがあったらいいのにといった課題が聞ければいいのではないかと、ということかと思っています。

そうすると、（３）も質問を少しシャープにしていくということであれば、そ

ういったことに結局なってくるかと思しますので、(3)を取る形で、②で、まだ連携していないのではなくて、連携したいのだけれどもとか、連携が必要だけれどもできないということについて教えてほしいという感じで置き換えたらどうかと、今の御意見をまとめていきますと、そういう形になるかと思えます。

この辺、いかがでしょうか。そんな形でいかがかなと。よろしいでしょうか。では、(3)を取る形で、②を書き換えていくというふうにしたいと思えます。

それから(2)、コロナ禍においてのことについても、全般的なことではなくて、むしろ他施設との連携、他機関との連携に当たって障害になったこと、困難だったこと、さらには新しい取組ができたことなど、コロナの状況の中で特化した取組ということで聞くということも、今、倉持委員が御提案のあったことですが、よろしいでしょうか。

もう一つ、研修のことについても、連携する力、手を取り合ってやる力、または連携先を実付ける力とか、異なる団体、組織とどういうふうに協議していくかという、その辺りのことは専門性としても入ってくるのかなと。その辺りを少し浮かび上がらせる聞き方にしたらどうかということで、全般的な研修だけじゃなくて、連携に関する研修、専門性、この辺りを聞いてみたらどうかということで、いいかなと思えますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

生島議長 何か、これまでのところに加えて、または感想などあったら、どうかと思えますが。4番目のそんな研修って、ちょっとイメージがつきにくいかもしれないですけども、ただ、(1)(2)(3)と聞いていく中で、連携ってそういうことだから、研修とか力をとったときには、少しイメージされてくるんじゃないかなというふうなことで、私も聞いていました。聞いていく順番も、こういう順番でやっていけば、分かるのかなと思ったところです。

笹生委員 すみません。1つだけ。研修という話を言った手前、少し意見をということなんですけれど、一応私の当初の意図としては、それこそ大学での職員の資質の向上の研修とかって、外部から人を呼んできて、話をしてもらったりすると思うので、その研修をすること自体が外部との連携だなというような認識で書いたというのが、正直なところです。

かなり私に気を遣っていただいて入れていただきましたけど、ちょっと趣旨が違うということであれば全然、外すことには問題ないかと思えます。ですので、話のレベル感がちょっとずれているかなという気も正直しますので、それは別に無理に入れなくてもよろしいのかなと。最初のほうにもありましたけど、随分話の時間もボリュームになると思えますので。最後、個別に聞いてみたいというときに聞くレベルで、その他レベルでいいのかなと思えます。

生島議長 そうですね。どうでしょう。今、御意見もありましたが。始めから入れちゃうんじゃないかと、時間の都合だったり、それまでの話の流れの中で、付け加える程度でいいんじゃないかというような御意見だったんですけども。いかがでしょうか。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 多分、ヒアリングをお願いする方の事前準備もあると思うので、連携に特化してお聞きするというのはそのとおりでありますが、ちょっと広げて言うと、

その広げたところからまた見えてくるものもあるんじゃないかと思います。だから、「貴施設での事業実施に当たり課題と感じていることがあれば教えてください」、全ての課題を全部出してくださいというのは、ちょっと趣旨が違うとは思いますが、何らかの連携に少しでも関連するようなことで、課題となったことを出してもらおうという、何か文章を工夫してもらおうといいのかなと思います。だから、それは体制の問題かもしれないですけど。

生島議長 そうすると、(3)は、やっぱり残しておいたほうがいいんじゃないか。

矢野委員 このままであるかどうかは別ですけれども、何らかの、施設として事業実施に当たって、課題や困難がある部分というのが、何か発言できる部分というのは残したほうがいいのかなと。

生島議長 そうしますと、今の御意見を受け止めれば、さっきの話だと、②があるから(3)自体はなくてもいいんじゃないかというのはあったけれども、やっぱり絞らないところから見えてくるところもあるんじゃないかというようなことで、「貴施設の事業実施に当たり」というと広くなっちゃうから、「貴施設で連携事業等を行うに当たって」ぐらいな感じで残しておいて、なければならないし、「さっき言いました」で済んじゃえばそれでいいんじゃないかということもあるので、項目としては残しておいてもいいんじゃないかというような、矢野委員の御意見かなと承りますけれども。

まあ、それも一つの手かなというか、やり方かなというふうに。

矢野委員 その他で、何か施設の方が話したいことというのがプラスアルファで話しやすくするというのも、あったほうがいいかなと。

生島議長 なるほど。そうしたら、例えばこんなのはいかがでしょうか。職員の研修のこともそうなんですけど、その他で連携等を行うに当たっての、事業実施での困難や、連携する職員の力量形成などみたいな形で、お話しただけのことがあれば教えてくださいみたいな。項目を立てるというよりは、その他の中の例示に研修のことも入れてみたらどうかなと思いましたけど。どうでしょうか。そうすると、一つ一つが重荷にならなくて、連携ということをやると当たって、しゃべりたいことをしゃべっていただけるということになるかなと。

栗畑委員、お願いいたします。

栗畑委員 ですから(3)は、本当にその他、何かあったらということで、何でもいいから思っていることを、なかったらなしでいいと。

ただ、もしあるなら、例えば職員の技能維持のための研修とかどうされていますとか、人材の確保のために苦勞などありませんかぐらいのことを例として2つぐらい入れておけば、何かあったらしゃべってということでよろしいのではないかと。

生島議長 ありがとうございます。

今、栗畑委員からもお話しいただきましたが、その他でくくって少し例示をしながら、お話しいただくという感じでいかがでしょうか。

砂押委員 いいと思います。

生島議長 はい。

では、少しその辺を整理して。ほかによろしいですか、このような形で。

砂押委員 砂押です。この項目だけで出すのではないですよ。ちゃんと鏡文というか、頭に国立市の生涯学習の推進計画で、連携とかそういうものが課題となっていると書かれていますと、それについて課題解決に向けた一歩として、こういうお話を聞かせてくださいみたいな、何かが最初につくんですよ。これだけポンと行っても、いきなりで直接過ぎるかなという気もします。そこはよろしくお願いします。

生島議長 はい。そこは、少し私のほうで、この文言を確認する中でつくらせていただいてもよろしいでしょうか。

(「お願いします」の声あり)

生島議長 はい。で、それで依頼をしていくということで。していきたいと思います。ありがとうございます。

加えて、あと少し手順的なことなんですけれども、投げかけた後、どうですか、答えをある程度持ってきていただいて、ここで話しただくというスタイルでよろしいでしょうか。それとも事前に何か答えを出しておいてもらって、私たちがそれを読み込んできて、追加でさらにこの場面で聞くみたいなふうにするのか。私は、個人的には前者でもいいのかなとも思っているんですけれども。いかがでしょうか。

笹生委員 私も賛成です。なので、先ほども言いましたように、こちらもちょうんと見ておくということが前提で、よろしいんじゃないかと。

生島議長 ありがとうございます。

では、我々は事業報告書がありますので、これを見ておいた上で投げかけて、そして投げかけたものの答えを持ってきていただくという形で、手順を踏むようにしたいと思います。

事務局 事務局です。砂押委員から鏡文の話が出ておりましたが、こちら、ヒアリングをお願いするに当たって、既に議長名で、財団のトップの方宛てに依頼文は出しておりますので、ここであえて書かなくてもいいかなというところがあります。依頼した内容を読み上げさせていただきます。

第24期国立市社会教育委員の会では、横断・連携を調査研究テーマとし、国立市内の社会教育関連施設の実情を把握するため、関連団体ヒアリングを実施することになりました。つきましては公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団が管理している、くにたち市民芸術小ホール、ほか、館の名前を列記していますけれども、そちらに対するヒアリングを実施いたしますので、関係職員の出席について御配慮いただきたいとしております。ヒアリングの趣旨としましては、豊かな学習機会を市民に提供するため、各施設の実情を把握し、その上で横断・連携の可能性を探るという内容でお願いしております。

こちらは既に財団のほうは受け取られているということで、ヒアリングの趣旨自体は認識されているかということでございます。

生島議長 既にここで議論されたものを切り取っていただいて、文章にさせていただいて、その上で日程調整になっているということですね。

事務局　そうです。手順としては。

生島議長　なので、あとは具体的にこんなことを聞きたいんですということで、今回お出しすることになるかと思えます。

事務局　それが一つと、もう一点、何を聞くのかというところを再度整理して御発言をまとめていただきたいというのがございます。今、いろいろ議論いただきましたが、最終的にこういった質問を投げかけましょうという整理をしていただけると。

生島議長　はい。分かりました。じゃ、もう一回最後に確認をしたいと思えます。

付け加えることは取りあえず、今はないということで、私の認識で確認したいと思えますので、後で付け加えてもらいたいんですけれども。

(1)は、貴施設で他の施設、機関等と連携して実施している特徴的な事業がありますかということで、その例として、学習者の満足度が高いとか、施設の特徴を生かしながら重要度が高い業務であるとか。「など」みたいな形で括弧をして付け加えておくといいかなのというのが、(1)。

で、①で、既に連携しているとあえて言うよりも、「それらの事業について」と言う複数出してくれるかなど。それらの事業について、以下の点について教えてくださいということで、ア、事業の内容や連携相手ですよ、連携先またはそれが始まったきっかけ。きっかけって、もしいい言葉があったら後で御発言いただければと思います。イ、連携の内容、役割分担、工夫。ウ、連携を行ったことによる効果や、課題もここで聞くと。

②では、連携する必要があるけれどもできていないことについて、そのできない理由や課題、また要望というか、期待というか、何かそういったことがあれば、こうだったらできるという何か解決策があれば、教えてほしいというのが、②になります。

(2)は、他の施設や館と連携するに当たって、コロナ禍で困難や配慮、新しいこと、できたこと、そういったことがあったら教えてくださいというようなことですね。

(3)がその他、貴施設が多機関と連携していくに当たって、課題と感じていること、もっとこうだったらいいのに、その他、他施設との連携について御意見等あれば教えてください、括弧、障害になっていること、人材育成、講師を知りたいとか、何かそんな例示をしておく、引き出しやすいかなど。

言葉の整理は必要ですけど、内容としてはこんなところかなと思いましたが、いかがでしょうか。認識がずれている、また特にこんなワードを使ったら、さっきの「特徴的な」ということがありましたけれども、もっと伝わりやすいんじゃないかというのがあれば、御意見をいただきたいと思えます。

まず認識は、これでよろしいでしょうか。

はい、ありがとうございます。

それから、ほかに追加してもっといい言葉、今、私も思いつきながらしゃべっていますけれども。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員　いい言葉ではないんですけど、この場で全部文章をまとめるというのは、時間の関係もあるのでしょうし、じっくり考えるとこういう文章のほうがいいということもあると思うので、ここは申し訳ないですけど、議長に取りまとめていただいて、後日事務局に出していただくという形で。全体の内容については皆さん、合意を得ているということなので、そうしていただいたほうがいい

かなと。

生島議長 はい。ありがとうございます。そうさせていただいてもよろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

事務局 事務局です。基本的にはこの場でということになりますので、今御発言いただいたことに基づいてつくっていただくということで、お願いいたします。

生島議長 はい。ありがとうございます。

基本方針は今のとおりのことになりますので、私も今、言い換えたりいろいろしようとしていたので、そのままでは駄目でしょうということだと思いますが、基本的にはそのお話でいきたいと思います。

石居委員、お願いします。

石居委員 さっきのきっかけのところですけど、一案として、うまく置き換えられているか分からないんですが、経緯や狙いというのは、一つの機会なのかなと思いました。

生島議長 経緯や狙い。

石居委員 連携の経緯や狙いというのが、始めたきっかけというのを、もう少し意図を酌み取りながら置き換える言葉になり得るかなというぐらいですかね。すみません。お任せします。

生島議長 本当にそうかなと私も思うので、置き換えていけばいいなと思いますが。

経緯とかいうのは、本当にそうですね。狙いというのもいいんじゃないかと思いますが、「きっかけ」はそう置き換えていきたいと思います。ありがとうございます。

ほかにはよろしいですか。では、まとめてお出しするというふうにしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

では、ヒアリング項目案はこれでよろしいですかね。ありがとうございます。

ごめんなさい。もう一つ。ヒアリング案は大体固まったんですけども、そうしたとき、今、予定が入っているのは芸小ホール、郷土文化館、体育館なんです。それはまず始めに指定管理の方たちから聞いてみようということだったんですが、ほかにも図書館や公民館について、ここでは協議中とありますけれど、聞いてみたらいいんじゃないかというお話もありましたが、今の質問項目に基づけば、図書館、公民館も聞いてみたらどうですかねということで、ここで固めておいて、もし聞くようであれば、一緒にアポを取ってもらうことになるかと思いますが、いかがでしょうか。皆さん方から御意見いただければと思います。

矢野委員、お願いいたします。

矢野委員 たしか前回のときに、この指定管理の施設についてヒアリングして、それで一旦まとめて、その後検討するみたいなお話だったかと思うんですね。多分質問項目も、市だとまた違った形にもなると思うので、一旦まとめてから、後からお聞きしたほうがいいのかかと。ずっと続けてじゃなくて。と思いました。

生島議長 はい。ありがとうございます。そうするとタイミング的に、12月、1月、2月というふうになって3館終わって、あと3月、4月というふうになると、そこで一回終えて、ちょっとみ直したりしながら、公民館、図書館も場合によって聞くとしたら、新年度に変わってからということで、少し時間もありませんので、まずはこの3館でということ、よろしいですかね。タイミング的にもそんなふうになるかと思いますが。

はい、ありがとうございます。では、まずこの3館というふうにして、聞いていきたいと思えます。

では、次ですけれども、施設担当者へのヒアリング方法につきまして、資料2について事務局からお願いいたします。皆さんも資料2を御覧ください。

事務局 事務局でございます。資料2を御覧ください。タイトルが「施設担当者へのヒアリング方法について（案）」となっております。

今し方、ヒアリングの項目については確認させていただきましたので、こちらの資料では、実際にヒアリングをするやり方について確認していただければと思えます。

項目が4つございます。1番のヒアリングを行う前、ヒアリング項目の取扱と、ちょっと難しい言葉になっていますが、先ほど議長も整理されていまして、質問を相手方に投げかけて、事前に受け取るのか、当日回答してもらうのかというところの取扱いを確認いただければと思っております。

それから2番、ヒアリング当日の方法でございますが、社教委の時間が2時間と想定する中で、前半をヒアリングにする、もしくは丸々使うとか、そういった時間配分の確認をしていただければと思えます。それから、ヒアリング時の進行するのは社教委の皆さんとなりますので、どなたが行うのか、確認いただきたいと思えます。

3番、ヒアリングを行った後でございますが、実際にヒアリングをした内容をどういった形でまとめていくのかという確認を、この場でしていただけると助かります。

4番、参考としまして、今後のスケジュールの中で、最終的には令和5年4月までが皆様の任期となりますので、そこまでにどうまとめていくか、スケジュール感も見ながら、3番については御検討いただきたいと考えてございます。説明は以上でございます。

生島議長 ありがとうございます。

1番につきましては、もうあらかた大丈夫ということで、まずはヒアリング項目を投げかけて、回答を持ってきてもらうという形にすると。

2番ですけれど、当日のヒアリング時間ですが、会議の2時間で、施設の方には7時から来ていただく形をお願いしているわけですけれども、それぞれのヒアリングの目安をどうするかということです。いかがでしょうか。多分、その会の中で、委員の中でもむ時間をつくるかどうかということも含めてだと思えますけれども、2時間の組立てですね。ちょっと御意見をいただければと思えます。

倉持副議長 一般的に考えれば、前半の1時間じゃないですかね。2時間聞くというのちょっと。ただ、1時間と言っていて延びることはあると思うので、1時間程度とお願いして、少し延びても1時間半ぐらいで収まるようにして。で、少し委員間で、ほかの議事があることもあるでしょうから、意見交換をするというぐらいが、一般的かなと思えますけれども。いかがですかね。

生島議長 栞畑委員、お願いいたします。

栞畑委員 結構質問が出るんじゃないかなと思うんですね。自分も市民ですから、この施設を利用していますので、多少分かる、想像できることもあるんですけども、意外な一面も発見した場合は、やっぱり質問したくなるし。そういう意味では、どういう内容で、向こうが何分ぐらい話したいかにもよると思いますけれど、ある程度皆さんが納得するために、質疑の時間はしっかり取ったほうが良いような気がしますけど。

生島議長 そうはいつでも、それだけで2時間使うわけにはいかないもので、1時間から1時間半程度ぐらいな感じで、ただ、延びちゃうこともあるので、あんまりマックスにしておくは大変ですから、1時間ぐらいを目安として考えながら、延びても1時間半ぐらいというふうなイメージで、やっていきたいと思います。で、その後、社教委の会として意見交換や、ほかのことについて少し調整して、終わるというふうにしたいと思います。それから、2つ目のヒアリングの時の進行を誰が行うかということですけども、今までのやり方とか、こんなやり方はどうかという形で御意見をいただければと思うんですが、いかがでしょうか。

栞畑委員 議長さんをお願いします。

生島議長 私が全部やってもいいんですけども、例えばヒアリングを行った後のまとめとかいうのも、メモとかレポートみたいな形で少しまとめたほうがいいのかと思っていて。となったとき、あらかじめ役割分担みたいな、この施設の担当はこのお二人でとかいうふうにして、やってもらってもいいのかなとも思っていたんですけども。なので、質問の投げかけとレポートというのを抱き合わせで、役割分担にするとどうかなと思ったりしていたところですが、いかがでしょうか。

石居委員 すみません。確認なんですけれど、担当者の役割は基本的に何を想定されているのか、もう一度伺えますか。

生島議長 主として、ヒアリングの時の問いの投げかけとか、恐らくこのヒアリング項目に沿って投げかけをしていってもらったり、司会のようなイメージですね。で、その方たちにまとめを一緒にしてもらったほうが、スムーズなのかなと思ひまして。ただ、1人だけでなく、2人ペアとか、そういう感じでいったらどうかなと思ったという、提案です。

石居委員 そのときのまとめというのは、その場での議論のまとめというイメージか、それともヒアリングを終えて事後に改めて、最終的なまとめに向かっていくときに、この回についてはひとまずこういうことでしたねというまとめまでやるイメージか、その辺はいかがですか。

生島議長 私のイメージでは後者です。ただ、議事録も取られているので、議事録はあるけれども、委員の観点でこの質問についてはこうだったということを出していただいて、後でまとめができるような、そういうレポートという意味です。私の提案としては。

石居委員 じゃ、整理と、そこから少し論点を抽出するような形で。分かりました。ありがとうございます。

生島議長 そのやり方を押しつけるわけではないので、そんなやり方もあるということなんですけれど、ちょっと御意見いただければと思っているところです。笹生委員、お願いいたします。

笹生委員 やはり、各施設ごとに整理と論点出しは必要だと思います。なので、そのまとめも必要だと思いますし、いつも議長にはいろいろやっていただいているので、それを議長にお任せするのは酷かなと思いますので、今の議長の提案に賛成です。

生島議長 ありがとうございます。そういうやり方でよろしいでしょうか。はい、ありがとうございます。

そうなりますと、ここで役割分担までしてしまいたいと思っているところですが、芸小ホール、郷土館、体育館というふうにありますけれども、ぜひ自分はこのをやりたい、ほかにもこの後出てくるかとも思いますので、今回は2人ぐらいずつがいいかなとは思っておりますけれども、ぜひここをやりたいと名のりを上げていただければいいなと思いますが、いかがでしょうか。矢野委員。

矢野委員 郷土文化館を。

生島議長 はい、では矢野委員、早い者勝ちで、ここに入ってください。ほかはいかがでしょうか。

笹生委員 笹生です。体育館を。

生島議長 ありがとうございます。笹生委員は体育館で。

中野委員 2人ずつぐらいですか。では、私も郷土文化館を。

生島議長 郷土文化館に中野委員、入ってください。ほかはいかがでしょうか。

朝比奈委員 では、私は体育館で。

生島議長 はい。よろしくお願ひします。芸小ホールが2人枠残っていますが。

砂押委員 あまり得意ではないですが。

生島議長 はい。やっていただけますでしょうか。砂押委員と、もうお一方。

石居委員 では郷土館を取られてしまったので、芸小ホールで。

中野委員 石居委員、専門家なんですよ。

石居委員 いいです、いいです。大丈夫です。

生島議長 あ、そうですよね。

石居委員 いえ、大丈夫です。外野からしゃべります。

生島議長 では、一応こういう形で、役割分担ということでお願いできればと思いますので、よろしくお願いいいたします。実際にヒアリングの場面での司会、投げかけをしていただくという形で、お願いできればと思います。

あと、そういう意味では3番のことについても、後で議論ができるように論点整理をするということで、併せて話をしたいと思いますので、そのような御準備もしていただければと思います。

あと、スケジュール案ですけれども、とにかくまず3つを先にやろうということでしたので、2月まででそれをやって、3月はその3館を振り返ってみるという場面になるかと思います。その意味では、この時にそれぞれの館のレポートを持ち寄っていただくというような認識でいただければいいのかなと。あと、聞いてみてどうするかというのは、また3月、4月で考えていければいいかなと思います。

これに関しましてはいかがでしょうか。そんな形で進められるといいかなと思います。よろしいでしょうか。

では早速、次回からになりますけれども、皆さん、どうぞよろしくお願いいいたします。

そうしましたら、次第3はこれで終わります。次第4の事務局からの連絡事項の前に、資料5の研修会のことについて、事務局から御説明いただければと思います。お願いいいたします。

事務局 事務局です。資料5を御覧ください。こちら、報告事項でございます。

先週の11月11日木曜日、府中の森芸術劇場で、令和3年度第52回関東甲信越社会教育研究大会東京大会の実施がございました。委員の皆様からは、中野委員、矢野委員に御参加いただきまして、倉持副議長はトークセッションの中で、コーディネーターというお立場で御参加いただいております。

内容の概要といたしましては、裏面でございます。まず、アトラクションということで、府中市の介護予防活動としてつくられた「元気一番！ふちゅう体操」の実演と体験がございまして、開会行事としまして主催者の挨拶、来賓祝辞、基調講演といたしまして、東京大学教授牧野篤氏から、「みんながつくる社会へー 一人生100年、AI、そしてポストコロナ時代の社会教育ー」の演題で、講演をいただきました。その後、この講演を受けましてのトークセッションということで、コーディネーターとして倉持副議長、登壇者として、先ほどの講師の牧野氏、調布市、昭島市、町田市の社会教育委員の方々と、トークセッションがございました。その後、質疑応答の時間、閉会行事としまして主催者から御挨拶をいただきまして、閉会という流れでございました。

当日の様子を撮影した映像と、参加者に配布された大会冊子は、東京大会のホームページで公開されるということですので、ぜひ御覧ください。冊子のほうは既に公開されていまして、来年の1月31日まで、映像に関しましては12月1日から来年の1月31日まで配信されるということですので、御確認いただければと思います。

資料5の報告は以上です。

生島議長 ありがとうございます。

中野委員と矢野委員が御出席いただけたということだったんですが、ちょっとだけ、何か御感想とかあれば触れていただければと思いますが、いかがでし

ようか。矢野委員。

矢野委員 基調講演が非常に壮大な内容で、短時間でちょっとついていくのが大変だったんですが。ただ、すごい印象的な言葉があったんですけど。「でもね」ではなく、「だったらこうしよう」の関係とか、開放形の試行錯誤のプロセスそのものが学びで、楽しいということは大事なんだと。そこは共感いたしました。

トークセッションは、広いテーマですけど、基本的には子供にとっての社会教育に集約されていました。結果的にそのようになっていたので、倉持先生のほうが多分コーディネーターで非常に御苦労されたんじゃないかなと思えました。個別の事例は参考になりました。以上です。

生島議長 そうでしたか。ありがとうございます。トークセッションはテーマがあったわけじゃなくて、まずは報告があって、まとめていってという。

中野委員、いかがでしょうか。

中野委員 私の感想は、基調講演をされた牧野先生のお話の中で、最も気になったのは、コミュニティと学ぶが焦点という項目があったんですけど、その中で、公民館が機能しているところは、福祉とか農業など全てがうまくいっているという実態があるというお話だったんですけど。公民館というのはやっぱり、都市部と地方でありようとか取り組み方、形態が違うと思うんですけど、公民館が機能しているということは多分、コミュニティが充実しているということじゃないかなというふうに思いました。小さな学びのグループが機能しているところは、いろんなことがうまくいっているんじゃないかと。

せっかく倉持先生がコーディネートをやっていたらしゃったので、質問すればよかったんですが、何となく手を挙げそびれてしまいました。トークセッションでは、町田の委員さんから、どこでどのような学びがあるのか、そのハブ機能を持たせることを答申するというをおっしゃっていたんですけど、やっぱり生涯学習は、市民それぞれ個々に学んでいくことですので、市が指揮を執ってやるということじゃなくて、要するにいろいろな学びがいっぱいあるわけですから、そういう実態を把握することが大事なんだということをおっしゃっていたんじゃないかなと思って。事業を推進することも大事ですけど、市民のそういう学びの実態をきちっと把握していくということが大事なんじゃないかなと。そこから、どういった支援ができるのかということが考えられるんじゃないかということを感じました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。中野委員は元からそういうふうな視点がおありだったので、町田のほうでやられている動きというのは、特にインパクトがあったかなというふうに、伺っていて思いました。ありがとうございます。

コーディネーターをされた倉持副議長、お疲れさまでした。大変だったんじゃないかというお話がありましたけど、率直に何か、もしあれば。

倉持副議長 初の試みで動画を撮ったということなので、実際の様子は動画で、ライブ感を味わっていただけるんじゃないかと思うんですけども。

社会的課題というか、地域課題を解決するための学びということと、一人一人にとっての生きがいや楽しみや、そういうことの学びという関係性について、前半の基調講演でもお話があったんですけども、後半のトークセッションでもその辺りの話を少し深めていったというところが、つまり課題解決のために学びがあるんじゃないけれども、一人一人の学びということがつながっていっ

て、地域の課題につながっていくということもあるよね、社会教育というの、そのつなげていくという観点を持っているんじゃないかみたいな話とか、あとは次世代育成ということで、子供の生涯学習という話があったんですけども、それを支えている大人たちの学び、地域の教育力という話なんかは展開されましたね。

さっき中野委員もおっしゃったネットワークとか対話ということの大事さが出て、社会教育という看板はかかっているなくても、いろいろな学びが地域の中で展開されて、いろいろな主体が取り組んでいることを、どうやって対話の場で、いろいろ交流するとか、あるいはネットワークキングしていくかということが、これからの社会教育という中で重要なんじゃないかというような話が後半出てきて、昭島でやっていらっしゃるあきしま会議という話が二ノ宮さんからあったり、吉田さんから町田で取り組んでいるネットワークの話があったり、それぞれの自治体で取組が始まっているねという話を共有しました。

短い時間、私にとってはずっと緊張していたので、短いと思ったんですけども、正味2時間ちょっとぐらいの中で、そういったいろんなトピックが出されたなと思いました。

以上です。

生島議長 ありがとうございます。どうも皆さん、お疲れさまでした。御参加ありがとうございます。ここでまたシェアしていただいて、本当にありがとうございます。

動画がアップされるということですので、後からでも後追いができそうだと、こういう我々にとっても新しい機会が生まれたのがコロナだったのかなと。積極的に見られれば良いなと思っております。ありがとうございます。

それでは、次第4、事務局からの連絡をお願いいたします。

事務局 事務局です。連絡事項が3点ございまして、1つ目が前回、第6回定例会で資料を配付させていただきました、都市社連教第2ブロック研修会の参加申込み、事務局への申込みは本日締切りとさせていただきますので、参加希望の委員がいらっしゃいましたら、メール等で御連絡いただければと思います。

それから、資料6を御覧ください。こちらは、令和3年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会交流大会・社会教育委員研修会の開催について、開催されるという御案内でございます。日時といたしましては12月11日土曜日午後1時30分から午後4時30分まで、場所は府中市市民活動センタープラッツバルトホールとなっております。

内容としましては2枚目の実施要綱にございまして、大きな項目としては、先週実施されました、関東甲信越静社会教育委員連絡協議会東京大会の実施報告、それから都市社連教の各ブロックで実施された研修会の実施報告、それから裏面を見ていただきまして、武蔵国府太鼓連盟の佐藤祐三氏の実演及びライブトークというふうな内容となっております。

こちらは事務局で取りまとめたの申込みとなりますので、委員の皆様で御参加いただける方がいらっしゃいましたら、事務局に御連絡いただければと思います。事務局への申込みの締切りは11月23日火曜日とさせていただきますので、それまでにメールでお申し込みいただければと思います。

生島議長 ありがとうございます。

まずは、今日までの締切りのものがありますので、希望者はこの後、口頭でもいいということですか。

事務局 はい。大丈夫です。

生島議長 はい。御連絡ください。

倉持副議長 第2ブロック研修会って、12月4日の午後でしたか。

事務局 12月4日土曜日、午後2時から3時半までとなっています。

倉持副議長 武蔵村山市。

事務局 はい。

生島議長 よろしいでしょうか。

あとは、資料6のものになります。

もう一つ、次回の定例会のことについて。

事務局 申し訳ございません。次回の定例会、第8回になりますけれども、12月21日火曜日午後7時からとなります。場所は同じこちら、市役所3階の第1・第2会議室となります。

先ほどのヒアリングということになりますので、今のところ芸術小ホールさんが来られるという予定となっております。急遽変わる可能性はゼロではないと思いますが、芸小ホールさんになろうかと思っております。

次回の定例会の日程は以上でございます。

生島議長 はい。ありがとうございます。もしも万が一、日程が変わった場合には、分かり次第メールとかでも御連絡いただけると理解して、よろしいですね。

事務局 そうですね。開催通知を皆様にお送りするまでには、確定いたします。

生島議長 分かりました。特に司会をしていただく方々、心の準備もあるかと思しますので、変更がありましたら御確認いただければと思います。

今日予定していたことは以上になりますけれども、何か、よろしいでしょうか。

では、長時間にわたりまして御審議いただきまして、ありがとうございます。これで終了いたします。お疲れさまでした。

— 了 —